

# 病害虫情報(第6号) 9月予報

平成25年8月29日  
神奈川県農業技術センター所長

## 【内容】

- I 9月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点 ..... 1
- II 9月の病害虫発生予報の内容とその根拠 ..... 8
- III 9月の気象予報及び気象の経過 ..... 12

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333  
 テレフォンサービス TEL 0463-58-6612

※ テレフォンサービスは、平成26年5月末で終了します。

インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

農薬を使用する際は、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。  
 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。  
**収穫期の作物が近接している場合など、個別に残留基準値の設定状況を考慮する必要がある場合は関係機関にご相談ください。**

\* 農薬に関する情報は、平成25年8月7日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 9月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点

※ [防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [発生・防除時期] \_\_\_\_\_ 発生時期 ~~~~ 多発時期 ..... 感染時期 ←——→ 防除適期

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
イネ	生育	並		《 登 熟 期 》				<生育調査：生産技術部・キヌヒカリ>	
	ウンカ類 トビロウンカ	並	△	←——→				アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [7日, 3回] ウンカ類：3,000倍、カメムシ類：2,000倍等	・トビロウンカは水田をよく観察し、飛来が認められたら直ちに防除する。飛来情報は当所ホームページ等でも提供する。 ・斑点米カメムシ類は特に出穂時期が遅い水田で発生に注意する。 ・アルバリン、スタークルの有効成分であるジノテフランの総使用回数は本田で3回以内。
	斑点米 カメムシ類	やや多	○						
カンキツ	生育	並		《 果 実 肥 大 期 》				<生育調査：足柄地区事務所根府川分室・普通温州>	
	黒点病	並	○	~~~~~				(予)シマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 みかん：[30日, 4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ：[90日, 4回] 600~800倍等	・8月下旬に薬剤散布を行っていない場合は、秋雨前線が停滞する前に実施する。
	かいよう病 (中晩柑類)	並	○	~~~~~				(予)コサイド3000 [生育期, -] 2,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍 (予・治)カスミンボルドー 又は カッパーシン水和剤 みかん：[7日, 5回] 1,000倍 みかんを除くかんきつ：[45日, 5回] 1,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍等	・強風による傷口、ミカンハモグリガの食害痕等から感染するので、台風等による強風が予想される前には予防散布を行い、かいよう病発生園では必ずミカンハモグリガの防除を徹底する。

# 病害虫情報

(H25・No. 6)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
カ ン キ ツ	チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	アクタラ顆粒水溶剤 [14日, 3回] アザミウマ類、カメムシ類：2,000倍 ミカンハモグリガ：2,000~3,000倍	・チャノキイロアザミウマは微小で発見しにくいので、果頂部の加害に注意する。
	ミカンハモグリガ	—	○	←					
	カメムシ類	少	△	←				テルスター水和剤 [前日, 3回] 1,000~2,000倍 等	・園内をよく見回り、発生を確認したら防除する。
	ミカンハダニ	並	○				~~~~~	バリュースターフロアブル [7日, 1回] 2,000倍	・果皮の食害が進まないうちに散布する。
	ミカン サビダニ	—	○			←	~~~~~	カネマイトフロアブル [7日, 1回] 1,000~1,500倍 等	
ナ シ	生 育	早		《 収 穫 期 》				<生育調査：生産技術部・豊水>	
	黒星病	並	○				~~~~~	(予・治)ポリバリン水和剤 [14日, 3回] 1,500倍 (予・治)オンリーワンフロアブル [前日, 3回] 黒星病：2,000~4,000倍 うどんこ病：2,000倍	・黒星病は9月下旬~10月上旬の降雨により、来年の芽に感染し越冬するので、発病園では必ずこの時期に防除を行う。
	うどんこ病	並	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予)キノンドーフロアブル [3日, 9回] 黒星病：1,000倍 等	
カ キ	うどんこ病	やや少	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予)フルピカフロアブル [14日, 5回] 2,000~3,000倍 (予・治)ベルクート水和剤 [14日, 3回] 1,000~1,500倍 等	・ベルクートは、「西村早生」では葉に薬害が生じる。
	カメムシ類	少	△	←				アクタラ顆粒水溶剤 [3日, 3回] 2,000倍 テルスターフロアブル [3日, 2回] 3,000~6,000倍 等	・園内をよく見回り、発生を確認したら防除する。
チ ヤ	生 育	並		《 秋 芽 生 育 期 》				<生育調査：北相地区事務所研究課・やぶきた>	
	炭疽病	やや多	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予)フロンサイドSC [14日, 1回] 2,000倍 (予・治)インダーフロアブル [7日, 2回] 炭疽病：5,000~8,000倍 もち病：5,000倍 等	・常発地では、必ず防除する。 ・フロンサイドは芽生育初期に使用する。 また輪斑病、新梢枯死症(輪斑病菌による)にも適用あり。
	もち病	並	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~		

# 病害虫情報

(H25・No. 6)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
チヤ	チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	→				カスケード乳剤 [7日, 2回] チャノキイロアザミウマ、チャノホソガ、 チャハマキ、チャノコカクモンハマキ、 チャノミドリヒメヨコバイ：4,000倍  スピノエースフロアブル [7日, 2回] チャノキイロアザミウマ、チャノホソガ、 チャノコカクモンハマキ：2,000～4,000倍 チャハマキ：4,000倍  コテツフロアブル [7日, 2回] チャノキイロアザミウマ、チャノコカクモンハマキ、 チャノミドリヒメヨコバイ、カンザワハダニ：2,000倍 等	・カスケードはヨモギエダシヤクにも適用あり。 ・スピノエース(4,000倍)はヨモギエダシヤクにも適用あり。 ・カンザワハダニは、発生に十分注意し、早めに防除する。防除にはコテツを使用する。 ・コテツはチャトゲコナジラミ、ヨモギエダシヤクにも適用あり。
	チャノホソガ	並	○						
	ハマキムシ類	やや少	○						
	チャノミドリ ヒメヨコバイ	多	◎						
ヤ	カンザワ ハダニ	多	◎	←→					
促成	炭疽病	やや多	○	~~~~~(定植)~~~~~ ←→				【育苗期】 (予)タフパール [育苗期～前日, -] 2,000～4,000倍 (予・治)サンリット水和剤 [前日, 3回] 2,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 等	・炭疽病は、発病した株の治療効果は期待できないので、発病株とその隣接株は速やかに処分する。 ・タフパールとの散布間隔 (出光興産(株)ホームページより) サンリット：3日以上 ベルコート：10日以上 コテツ、プレバソン：混用事例あり
	うどんこ病	—	○	~~~~~(定植)~~~~~ ←→				【育苗期】 (予)タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予・治)サンリット水和剤 [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍  【定植後】 (予)インプレッション水和剤 [発病前～発病初期, -] 500～1,000倍 (予)サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (治)カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 等	
ゴ	アブラムシ類	やや多	○	~~~~~(定植)~~~~~ ←→				モスピラン粒剤 [定植時, 1回] 植穴土壌混和：0.5～1g/株 又は 株元散布：0.5g/株  オンコル粒剤5 [定植時, 1回] 植穴土壌混和 又は 植溝土壌混和：4kg/10a 等	・モスピランの「植穴土壌混和」及び「株元散布」は合計1回。「植穴土壌混和：1g/株」はコナジラミ類、コガネムシ類幼虫にも適用あり。

# 病害虫情報

(H25・No. 6)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
促 成 イ チ ゴ	ハダニ類	—	○	—————(定植)————— ←—————→				コテツフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 等	・本ぼに持ち込まないよう防除を徹底する。 ・コテツはミカンキイロアザミウマ、シクラメンホコリダニにも適用あり。
	ハスモン ヨトウ	やや多	○	~~~~~(定植)~~~~~ ←—————→				コテツフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 プレバソンフロアブル5 [前日, 2回] 2,000倍 アニキ乳剤 [前日, 3回] 2,000倍 等	・アニキ(1,000~2,000倍)はオオタバコガにも適用あり。
	コガネムシ類 幼虫	—	△	~~~~~(定植)~~~~~ ←—————→				ダイアジノンSLゾル [ポット育苗時, 1回] 育苗ポット灌注: 500倍 (1,000L/10a) [定植前(本圃), 1回] 全面土壌混和: 25倍 (100L/10a) 等	・ダイアジノンの総使用回数は2回。
抑 制 ト	葉かび病	—	○	—————				(予)インプレッション水和剤 [発病前~発病初期, —] 葉かび病: 500倍 うどんこ病: 500~1,000倍 (予・治)アフエットフロアブル [前日, 3回] 葉かび病: 2,000倍 うどんこ病: 2,000~4,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 等	・ベルコートはすすかび病にも適用あり。
	うどんこ病	—	○	←—————→					
マ ト	コナジラミ類 タバコ コナジラミ (TYLCV)	多 (多)	○	~~~~~				アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 2回] コナジラミ類: 2,000~3,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] 4,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 エコピタ液剤 [前日, —] コナジラミ類: 100~200倍 アブラムシ類: 100倍 等	・モスピランはアザミウマ類にも適用あり。 ・エコピタ (100~200倍) はうどんこ病にも適用あり。
	アブラムシ類	やや多	○	←—————→					

# 病害虫情報

(H25・No. 6)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
抑制 キ	うどんこ病	—	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予)ダコニール1000 [前日, 8回] 1,000倍 (予)フルピカフロアブル [前日, 4回] うどんこ病、褐斑病: 2,000~3,000倍 (予)インプレッション水和剤 [発病前~発病初期, -] うどんこ病: 500~1,000倍 (予・治)ハチハチ乳剤 [前日, 2回] 1,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [前日, 5回] うどんこ病、褐斑病: 2,000倍 等	・多湿状態で施設を閉め切ると病気が蔓延するので、午後は換気に努める。 ・ハチハチは幼苗期に使用すると薬害を生じる恐れがある。
	べと病	—	○	←~~~~~→					
	褐斑病	—	○						
ユ ウ リ	アザミウマ類	やや多	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	ハチハチ乳剤 [前日, 2回] 1,000~2,000倍 アファーム乳剤 [前日, 2回] ミナミキイロアザミウマ: 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] アザミウマ類: 5,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 3回] アザミウマ類、アブラムシ類: 2,000~4,000倍 コナジラミ類: 2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類: 4,000倍 等	・ハチハチはウリノメイガにも適用あり。 ・アファームはハスモンヨトウ、トマトハモグリバエ、ウリノメイガにも適用あり。 ・スピノエースはハモグリバエ類、ウリノメイガにも適用あり。 ・モスピラン (2,000倍) はウリノメイガにも適用あり。
	ミナミキイロアザミウマ (MYSV)				←~~~~~→				
	アブラムシ類 (CMV等)	やや多	○						
	コナジラミ類 (CCYV)	—	○						
ナ	アザミウマ類	並	○	~~~~~	~~~~~			コテツフロアブル [前日, 4回] 2,000倍 アファーム乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 等	・コテツはハスモンヨトウ、ヨトウムシにも適用あり。 ・アファームはハスモンヨトウ、マメハモグリバエにも適用あり。
	ミナミキイロアザミウマ				←~~~~~→				
	ミカンキイロアザミウマ	やや少	○						
ス	オオタバコガ	やや多	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	コテツフロアブル [前日, 4回] 2,000倍 アファーム乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 プレバゾンフロアブル5 [前日, 2回] 2000倍 等	・プレバゾンはハスモンヨトウ、ハモグリバエ類にも適用あり。
	ハダニ類	やや多	○	~~~~~	~~~~~				
	チャノホコリダニ	並	○	←~~~~~→					
								ハダニ類: 1,000倍 等	

# 病害虫情報

(H25・No. 6)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
ネ	さび病 黒斑病	— —	○ △					(予)シマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [14日, 3回] 600倍 (予・治)ベルコート水和剤 [30日, 3回] 2,000倍	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネギの農薬散布には、固着性のよい展着剤を必ず加用する。</li> <li>さび病は、肥料不足や窒素過多にすると発病しやすい。初発は下葉にみられやすく、発生初期から定期的に農薬散布する。</li> <li>シマンダイセン、ペンコゼブはべと病にも適用あり。</li> </ul>
	ネギ アザミウマ シロイチ モジヨトウ	やや多 並	○ ○					モスピラン顆粒水溶剤 [7日, 3回] アザミウマ類：2,000倍 アニキ乳剤 [3日, 3回] ネギアザミウマ：1,000倍 シロイチモジヨトウ：1,000～2,000倍 ポタニガードES [発生初期, —] アザミウマ類：500～1,000倍 ファルコンフロアブル [前日, 2回] シロイチモジヨトウ：4,000倍等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポタニガードとの散布間隔(メーカー情報より) シマンダイセン、ベルコート水和剤：3日</li> </ul>
ダイコン	アブラムシ類 (CMV等)	やや多	○					<b>【は種時：粒剤施用】</b> オンコル粒剤5 アブラムシ類：[は種時, 1回] 3kg/10a アクタラ粒剤5 アブラムシ類：[は種時, 1回] 4kg/10a <b>【発芽後：散布】</b> オルトラン水和剤 又は ジェイエース水溶剤 [14日, 2回] アブラムシ類：1,500～2,000倍 ダイコンシンクイムシ：1,500倍 パダンSG水溶剤 [7日, 3回] アブラムシ類：1,500倍 ダイコンシンクイムシ：1,000倍等	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンコル(3～6kg/10a)はキスジノミハムシにも適用あり。</li> <li>オルトラン(1,500倍)はカブラハバチにも適用あり。</li> <li>本年のように夏が高温少雨の年には、ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)が多発しやすいため、防除を徹底する。</li> </ul>
	ハイマダラノ メイガ (ダイコン シンクイムシ)	—	○						

# 病害虫情報

(H25・No. 6)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
キ   ヤ  ベ  ツ	べと病	—	○	(定植) ←———→	←———→	←———→	←———→	(予) Zボルドー [—, —] 500倍 (予・治) リドミルゴールドMZ [30日, 3回] 1,000倍 等	・Zボルドーはクレフノン(—, —) 100～200倍)を加用する。黒腐病、軟腐病にも適用あり。
	ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ)	—	○	(定植) ~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	<b>【育苗期後半又は定植時：粒剤施用】</b> ダントツ粒剤 ハイマダラノメイガ： [育苗期後半, 1回] 0.5g/株 又は [定植時, 1回] 1～2g/株 ネギアザミウマ： [育苗期後半, 1回] 0.5g/株	・ダントツの [育苗期後半] は、コナガ、アブラムシ類、ネキリムシ類にも適用あり。 [定植時] はコナガ (2g/株)、アブラムシ類 (1g/株) にも適用あり。
	オオタバコガ	やや多	○	(定植) —~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~		
	ハスモンヨトウ	やや多	○	←———→	←———→	←———→	←———→		
	ネギアザミウマ	—	○					<b>【定植前：苗地床灌注】</b> プレバソンフロアブル5 [育苗期後半～定植当日, 1回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ：500倍 (苗地床1㎡あたり2L) <b>【定植前：セル成型育苗 又は ペーパーポット育苗灌注】</b> プレバソンフロアブル5 [育苗期後半～定植当日, 1回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ：100倍 (1箱又は1冊あたり0.5L) ジュリボフロアブル [育苗期後半～定植当日, 1回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、 ネギアザミウマ：200倍 (1箱又は1冊あたり0.5L) <b>【定植後：散布】</b> フローバックDF [発生初期(但し、前日), —] ハイマダラノメイガ、オオタバコガ、 ハスモンヨトウ：1,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [3日, 3回] ハイマダラノメイガ、アザミウマ類：5,000倍 等	・プレバソンとジュリボは同一成分を含むので、重複使用しないこと。なお、プレバソン、ジュリボの灌注処理は、いずれか1回のみ。 ・プレバソンの【苗地床灌注】と【セル成型育苗又はペーパーポット育苗灌注】はコナガにも適用あり。 ・ジュリボはコナガ、アブラムシ類にも適用あり。 また、【苗地床灌注】の使用方法では、[は種時, 1回] 1,000倍 (苗地床1㎡あたり2L) でコナガ、アブラムシ類に適用あり。 ・フローバックはコナガ (1,000～2,000倍) にも適用あり。 ・スピノエースはコナガ (2,500～5,000倍) にも適用あり。 ・本年のように夏が高温少雨の年には、ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ) が多発しやすいため、防除を徹底する。

# 病害虫情報 (H25・No.6) ..... 神奈川県農業技術センター

## Ⅱ 9月の病害虫発生予報の内容とその根拠

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
水稻 いもち病 (穂いもち)	少	やや少	1) 巡回調査では、葉いもちの発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 巡回調査では、穂いもちの発病は見られず、発生が平年並。(±) 3) いもち病常発地点での発病は見られず、過去の調査年と比べて発生が少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
紋枯病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 生育診断ほでは、草丈は平年並、分けつ数は平年並～やや多、葉色は平年並～やや濃い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
トビイロウンカ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 予察灯への飛来は、見られていない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
斑点米カメムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯への飛来量は、平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
カンキツ 黒点病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
かいよう病 (中晩柑類)	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉、夏秋葉、果実での発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)の粘着トラップでは、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
ナシ 黒星病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、徒長枝での発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)



# 病害虫情報 (H25・No.6) ..... 神奈川県農業技術センター

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
ナシ うどんこ病	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並が多い予報。(±)
ブドウ べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並が多い予報。(＋)
カキ うどんこ病	中	やや少	1) 7月の巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並が多い予報。(±)

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
果樹全般 カメムシ類	少	少	1) ナシの巡回調査では、被害果は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯及びフェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 県予察ほ(上吉沢)の予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年並。(±) 4) 県予察ほ(根府川)の予察灯及びフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 5) ヒノキ球果上のカメムシ寄生数は、幼虫が平年より多く(＋)、成虫は平年並。(±) 6) ヒノキ球果上の吸汁痕(口針鞘)数は、平年より少ない。(－) 7) 8月中～下旬のヒノキ球果吸汁痕(口針鞘)調査では、移動分散目安を超えた地点がない。(－) 8) 気温は平年より高く、降水量は平年並が多い予報。(±)
チャ 炭疽病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並が多い予報。(＋)
もち病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並が多い予報。(＋)

# 病害虫情報 (H25・No.6) ..... 神奈川県農業技術センター

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
チャ チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
チャノホソガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 3) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(－) 4) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)とも平年より少ない。(－) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
チャノミドリヒメコバイ	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
ハマキムシ類 (チャノコカクモンハマキ チャハマキ) (発生時期)	少 －	やや少 (並)	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 3) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(－) 4) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)とも平年より少ない。(－) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
チャ カンザワハダニ	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 足柄地区事務所の巡回調査では、発生が増加している。(＋) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
促成イチゴ 炭疽病	少	やや多	1) 巡回調査では、育苗期の発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
抑制トマト タバココナジラミ (TYLCV)	少	多 (多)	1) 7月の露地トマト巡回調査では、タバココナジラミの発生が平年より多く(＋)、トマト黄化葉巻病の発生が平年より多い(＋)。 2) 野外設置の黄色粘着板へのコナジラミ類の誘殺数は、伊勢原では5年平均値より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
抑制キュウリ ミナミキイロアザミウマ	少	やや多	1) ナスの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
露地ナス アザミウマ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 やや少	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの発生が平年並(±)、ミカンキイロアザミウマの発生が平年より少ない(－)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

# 病害虫情報

(H25・No.6)

神奈川県農業技術センター

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
露地ナス ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
チャノホコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
ネギ ネギアザミウマ	甚	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
シロイチモジヨトウ	－	並	1) フェロモントラップでの誘殺数は、横浜は平年より少なく(－)、伊勢原は平均より多い(＋)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
アブラナ科野菜 コナガ	－	やや少	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦は平年並(±)、横浜は平年より少ない(－)。 2) 県予察ほ(平塚)のフェロモントラップでの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(－)
野菜全般 アブラムシ類	少	やや多	1) ナスの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への誘殺数は、平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
野菜全般 ハスモンヨトウ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦は平年より少なく(－)、横浜は平年より多い(＋)。 2) 県予察ほ(平塚)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) ナスの巡回調査では、発生が平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
オオタバコガ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜とも平年並(±)、伊勢原は平均より多い(＋)。 2) 県予察ほ(平塚)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い。(＋) 3) ナスの巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)

(注) 「発生量」の表示 …… 程 度：甚>多>中>少>無

平年比：多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」 …… (＋)：多発要因 (－)：少発要因

## Ⅲ 9月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部8月22日発表3か月予報)

### 〈天 気〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	30%	50%
降 水 量	20%	40%	40%

### 〈気象の経過〉 [観測地 横浜地方気象台]

8月第5半旬まで

気温は、1半旬は平年並、2～5半旬は平年より高かった。

降水量は、1～4半旬は平年より少なく、5半旬は平年並だった。

日照時間は、1半旬は平年並、2～4半旬は平年より多く、5半旬は平年より少なかった。

